

## 地域ケア会議

鹿児島市地域包括支援センター 谷山中央

【計画】

作成担当者： 大園 美穂

開催日時	令和01年12月16日 10:30 ~ 12:00	開催場所	特別養護老人ホーム ぶれーす谷山 交流会議室
参加者	民生委員：1人、谷山校区町内会4班 町内会長：3人、地域の高齢者代表：7人、社会福祉協議会：1人、地域包括支援センター職員：7人		
	総数 19人		
内容	テーマ	テーマ：いつまでも元気でココ（谷山中央）で暮らすために ①自分が5年後、どういう状態にありたいか？ ②現在の生活と5年後を比べた時に不安はあるか？	
	目的	地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の発見、地域づくり・資源開発	
	概要	3つの町内会（寺下、下松崎、中組）は住宅密集地で少子高齢化や空き家問題、公民館の老朽化等の課題を抱える地域。寺下・下松崎は、担い手不足や参加者数の減少等によりふれあい会食の存続困難が予想され、中組は高齢者の集まる場がない、という背景がある中、実際に地域で暮らす高齢者が何を求めているのか、ニーズを明らかにすることを目的とする。	

【結果】

開催日時	令和01年12月16日 10:30 ~ 12:00	開催場所	特別養護老人ホーム ぶれーす谷山 交流会議室
参加者	民生委員：1人、谷山校区町内会4班 町内会長：3人、地域の高齢者代表：7人、社会福祉協議会：1人、地域包括支援センター職員：7人		
	総数 19人		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会長や民生委員以外に、地域の高齢者を代表して7人が参加。高齢者が発言しやすいよう、グループ分けやアイスブレイク、ブレインストーミングなど会の進行を工夫したことで、和気あいあいとした雰囲気の中で高齢者の率直な意見を引き出すことができた。</li> <li>・地域課題に挙げている集いの場について、高齢者自身も交流の場や健康教室等への参加を求めていることが分かり、包括側と住民双方の課題が一致していることが分かったのは収穫だった。</li> <li>・特に、公民館の老朽化等により住民同士の交流活動をしていない中組の高齢者から集いの場を求める声が上がリ、前回地域ケア会議では引き出せなかった高齢者のニーズを知ることができたのは成果だった。</li> <li>・一方で、集いの場には参加したいが、自主運営をすることには消極的な意見が多数だった。集いの場のニーズはあっても、率先して担い手（世話人、代表者）になり集いの場を立ち上げていく機運はまだ育っておらず、担い手不足の課題が明確になったことも成果と言える。</li> </ul>		
今後の課題など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館活動をしていない中組については、集いの場づくりの必要性が高いと思われるが、集いの場を創設し運営していく機運が住民全体の意識としてあるのか再度確認が必要である。</li> <li>・交流会議室を開放する特養 ぶれーす谷山においても、冬場の感染症流行時期は面会者を制限している。地域の高齢者が施設に出入りすることが感染拡大につながらないか、または施設を自由開放することによる施設側の負担（清掃整備等）はどうするのかなど、施設側のリスクマネジメントにも目を向ける必要がある。</li> </ul>		